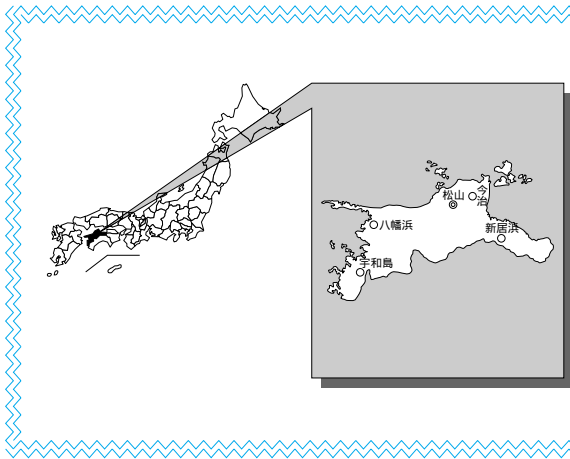


# 土木紀行

## 石手川橋梁

愛媛県松山市



### 1. はじめに

伊予鉄道は、1888（明治20）年に創立され、狭軌の軽便鉄道としては、日本最初の鉄道で、民営鉄道としては「南海電鉄」に次ぐ全国二番目の鉄道です。2012（平成24）年をもって創立125周年を迎えました。現在は、鉄道事業として、高浜線、横河原線および郡中線で延長33.9km、軌道事業として、松山城を中心に環状線として、また



写真 1 石手川橋梁を通過する3000系電車

道後温泉への路面電車として9.6kmの営業を行っています。

夏目漱石の小説「坊っちゃん」に登場する「マッチ箱のような汽車」と書かれた「坊っちゃん列車」のいわれは有名です。「坊っちゃん列車」は2001（平成13）年に蒸気機関車からディーゼル機関車として復元され、市内を訪れる観光客、また市民に親しまれています。

### 2. 120年を迎える石手川橋梁

石手川橋梁のある横河原線は、1889（明治21）年に運行開始した松山～三津間に続き、周辺住民の要望により1893（明治26）年に延伸開業したものです。伊予鉄道百年史によると石手川橋梁、立花駅付近の用地買収に手間取り、1892（明治25）年「公用土地買上規則（現：土地収用法）」を適用しており、これは愛媛県下では初めての土地強制買収となっています。

石手川橋梁は、一級河川石手川を横断しており、1893（明治26）年の横河原線開業以来使用されています。橋は、2013（平成25）年をもって120歳を迎えました。橋台と橋脚は煉瓦造、橋桁は錬鉄製ピン結合トラスとなっています。桁は英国製の100フィート単線ポニーブラットトラスと呼ばれ、明治期にレールや車両と同様に欧米の技術の導入により、いろいろな鉄道会社で製作・架設されていますが、現存する当初からの鋼鉄道橋としては最古の

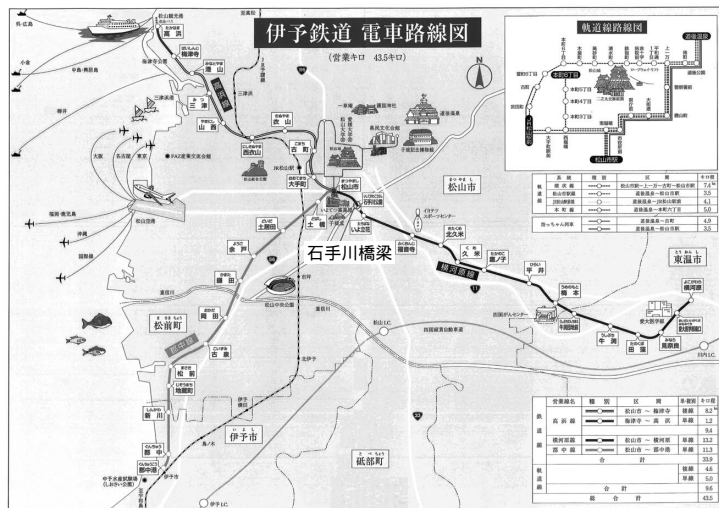


図 1 伊予鉄道路線図と石手川橋梁

ものとなっています。他社において導入された他の桁は河川改修により撤去されたり、道路橋に転用されたりしているようです。

石手川橋梁は、過去に幾度かの改良が加えられています。まず、敷設当時の軽便鉄道の762mmの軌間から1931(昭和6)年に行われた1,067mmの普通鉄道サイズへの改軌。1954(昭和29)年にはディーゼル化、1967(昭和42)年には電化に伴い、荷重が増加したため横桁および斜材の補強を実施。1970(昭和45)年には上流側に歩道橋を取り付け、また、1972(昭和47)年には橋梁内に石手川公園駅を新設しています。輸入当初、軽便鉄道としては、設計荷重、建築限界とも過大であったと思われませんが、以後の電化等大型車導入に際して、一部の補強だけで対応ができています。また、当該地は石手川公園の中にあり、緑も豊富で環境的にも恵まれた箇所にあったことが長く使用することができている理由の一つと思われる。

### 3. これからの石手川橋梁

現在、石手川橋梁の周辺は石手川公園として、春には桜が咲き、夏には新緑、公園の花畑。また、公園の遊具で戯れる親子が見られ、大変穏やかな空間となっています。その中にある100年以上前からある橋とそこにある駅にゆっくりと止まる電車。全てが街の風景に溶け込んでいます。

今回、土木学会より「選奨土木遺産」の指定を戴きました。この指定を「社会的資産」としてまちづくりに生かし、今後もこの橋を大事に守っていきたいと思っています。

- ・ 橋梁名：石手川橋梁
- ・ 位置：横河原線，松山市～伊予立花間  
高浜起点 10km284m
- ・ 型式：ポニー下路プラットラス
- ・ 支間：31.55m ・ 桁高：3.51m
- ・ 主構中心間：5.18m

なお、横河原線開業当時より運用され、石手川橋梁と併せて選奨土木遺産に指定されたレンガ橋(第26号溝橋)は起点(松山市側)の踏切と並行に約120m進んだ位置にあります。なお、レンガ



写真 2 国内最古の鋼鉄道橋



写真 3 下から見上げた石手川橋梁



写真 4 選奨土木遺産のレンガ橋



写真 5 レンガ橋を解説している銘板

橋は松山市により「景観形成重要建築物等」に指定されています。

一度併せて訪れられたらいかがでしょうか。

【交通】 伊予鉄道横河原線 松山市駅から一駅 2分  
石手川公園駅内

【参考文献】 伊予鉄道百年史

【問い合わせ】 伊予鉄道株式会社 運輸課  
電話 (089) 948 3323